

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年1月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修

JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として集合研修が開催されている。

1月は12・19・26日の金曜日午前に開催され、「農業経営（労務管理、税務）」「GAP、農作業安産」等の講義が行われ、農業普及課では開催を支援するとともに、GAPについて講師として対応した。

受講生は毎回20名程度で、熱心にメモを取るなど意欲的に取り組んでいる。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、集合研修や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。

(地域支援係)



【GAPの講義】

■重点支援対象者 法人化に向けた打ち合わせ

関市内で土地利用型農業を営んでいる生産者が、来年度中の法人化を目指し、検討を始めた。1月11日に、農業経営者法人化等総合サポート事業を活用して中小企業診断士を招き、法人化におけるポイントについての意見交換を行った。特に、現在の経営状況や今後の法人化に向けての手続き等について、専門家から助言を受けた。

農業普及課では今後も引き続き、ぎふアグリチャレンジ支援センターなどの関係機関と連携を図り、法人化に向けての経営支援等を行っていく。

(地域支援係)



【支援会議】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 検討会（グリサポ事業）

JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会支援プロジェクトが、ほらどキウイプラザで第4回の検討会を開催した。

検討会では、これまでの活動結果のまとめとして、グリーンな栽培マニュアルについて検討し、有機質肥料施肥体系や電動式剪定バサミを利用した作業について実証結果を栽培暦に組み込んだ。また、産地として5年後の目指すべき姿や関係者の役割分担について確認し、産地戦略としてまとめた。

2年間の実証を行ってきたが、部会全体で取り組むためには、栽培技術の浸透及び部会員の意識改革について継続的に進めていく必要がある。

農業普及課では、部会を始め関係機関と共に持続可能な産地づくりを支援していく。

(地域支援係)



【検討会】